



希望に胸がふくらみますね。友だち100人出来るかな。

市文化協会主催「文化力を磨こう！」 直木賞作家・唯川恵トークイベント

3月19日(金)、石川県出身の直木賞作家である唯川恵さんを招いたトークイベントがにぎわいの里のいち カミーノで開催されました。これまでの著作の中から、『淳子のてっぺん』『さよならが知ってるたぐさのこと』を中心に談話が進行。登山家の女性を主役にした『淳子のてっぺん』では、「自らの登山の経験やその時感じたことを反映させました。人生と小説、根底に流れるものは同じだと思ひ日々書いています。」と、執筆にまつわる秘話の数々が語られました。



舞台女優の高輪真知子さんによる小説の朗読もありました。



消毒や飛沫防止のパーテーションなどで感染症対策も徹底。

歩いて深めた「地域愛」の集大成 冊子『「郷」の自然と歴史』の発行

郷公民館では、郷地区を中心に市内外を歩いて巡る「みんなでウォーキング」事業を行っています。楽しみながら健康づくりができると人気が、平成28年の開始以来この4月で50回目を迎えました。この節目に、これまで歩いた中での「気づき」をまとめた冊子を発行。「長池には池があったの?」「蓮花寺に寺はないのはなぜ?」といった疑問から見つけた地域の歴史や、コースの見どころなどを掲載しました。冊子は郷公民館で読むことができます。



多くの写真と大きな字で子どもでも読めるよう工夫。

さあ！新しい日常を歩もう

市内小中学校入学式

清々しい青空が広がった4月7日(水)、市内の小中学校で入学式が行われ、小学生532人、中学生536人が新たな学びやでのスタートを切りました。御園小学校では114人の新入生を前に、棟野校長先生が「人を幸せにする言葉“あいさつ”と学校は挑戦するところで“間違いを恐れないこと”の2つを大切にしたい」と話しました。入学式の後それぞれの教室に入り、担任の先生と初顔合わせ。先生からの呼びかけに、元氣よく手を挙げる子どもたちの姿が見られました。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎227-6056

野々市がた〜くさん詰まってる！

みんなのヤーコンカレー&つばき最中ののあわせ

市特産品のヤーコンや市花木ツバキを使用した商品を市民活動センター登録の市民活動団体2組が考案、野々市の魅力を発信する品々が誕生しました。

食の安全と地産地消に取り組む団体1、2、3Laboが市内ヤーコン生産者との連携で開発したのが「みんなのヤーコンカレー」。なんと内容量の50%が県内で生産されたヤーコン。規格外のものを使用することで食品ロスの解消にもつながっています。ヤーコンはフラクトオリゴ糖の含有量が多い野菜の代表格、健康にも嬉しいカレーに仕上がりました。

ツバキを使った商品の開発などを行う団体e-やんと3つの事業所が連携して考案したのは「つばき最中ののあわせ」。養蜂家しずく工房のはちみつ、e-やんのツバキの花びらジャム入りのあんが、ツバキ形の最中に詰まっています。包装に描かれた色鮮やかなツバキは写真映え抜群。味も見た目も楽しめる一品です。



①みんなのヤーコンカレー（右）とつばき最中ののあわせ（左）
②完成披露会の様子。開発に協力した市農業協同組合や翠星高校の関係者が出席しました。③4つの異業種メンバーで組織した「野々市つばき商品開発研究会」の皆さん。かわばた菓子店（金沢市）が中身のあんを、包装のデザインはかねこ結納品店が担当しました。

Welcome to 野々市！

大学出張窓口

4月から新たに市内の大学に通う学生に向けて、転入受け付けの出張窓口を市民課が開設しました。この窓口は、転入手続き負担の軽減と住民登録促進のために毎年設けており、今年で13年目を数えます。金沢工業大学で3月27日(土)・28日(日)、石川県立大学で4月5日(月)に実施し、計224人の転入を受け付けました。

出張窓口を利用した学生からは「入学式に来てそのまま手続きできるのはありがたい」「わかりやすく教えてもらえて助かりました」などの声が聞かれました。



押野児童館を皮切りに、2021年中に全児童館で開催予定です。

大切な人を交通事故から守るため

反射材着用推進運動『たすき愛2021』

3月19日(金)、白山警察署交通課と市交通安全協会が押野児童館を訪れ、この日児童館を利用していた約10人の小学生に交通安全教室を開催し、反射材を配布しました。『たすき愛2021』は、子どもたちから大人へ「車に気をつけてね」などのメッセージを添えて反射材を贈ってもらうことで、反射材着用率の向上を目指しています。交通安全教室では、警察官からの①止まる②見る③待つをしっかりと守ろうとの声かけに、小学生らは元気のよい声で「はい！」と応えていました。

幕末に生きた、ある男の記録

市民歴史講座「旅日記を詠む」

学びの杜ののいち カレードで3月27日(土)、市民歴史講座が開催されました。今回は、とある男性が1860年に記した旅日記を題材に古文を一文一文丁寧に読み解きました。長年逗留した金沢を離れ、京都へ向かう道中が記されたこの文章。北国街道を進み「野々市の里」や「松任の駅」で休憩、「水嶋の里」で一泊など今に残る地名が数多く登場するのも見どころです。参加者はまちの様子や筆者の和歌の解説を聞きながら、往時の旅へと想像を膨らませていました。



旧北国街道沿いの本町は「野々市宿」という宿場でした。